

つばさ

地域の皆さまに信頼される病院として
安全で質の高い医療を提供します。

独立行政法人地域医療機能推進機構
神戸中央病院
〒651-1145
神戸市北区惣山町2丁目1-1
TEL 078-594-2211
FAX 078-594-2244
<http://kobe.jcho.go.jp/>

新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

昨年はコロナ禍3年半でようやくウイルスの扱いが2類から5類になり、人が集まっていたイベントも再開されるようになりました。

当院は1948年7月に生田区（現中央区）中山手に開設され昨年7月で75年、北区に移転して37年を迎えました。開設75周年を迎え、職員、OBを中心に7月に記念懇親会を開催しました。街で生まれた病院が生まれた地で半生を過ごし、北区へ移り

り年月を経て、成熟期に入ったといえるでしょう。これからは北区での年月が長くなってゆきます。これまで以上に神戸市北区の地域医療に尽くしてゆきたいと考えております。

地域医療の在り方は地域の人口を含めた住まい方に大きく左右されます。神戸市北区の人口動態から割り出された高齢者を中心とした医療・介護ニーズは当面は高止まりの様相を呈するとされています。当院としても、これらの推計と現実の地域の動向を踏まえて診療体制を整備してゆく必要があると考えております。

一方で、地域の足元を見ると北区を貫く神戸電鉄の主要駅を中心とした再開発が進んでおり、とくに鈴蘭台、北鈴蘭台の駅近傍には公共施設や大規模な集合住宅が建設されつつあり、北区本区地域の人口の転入から転出を差し引いた社会増減数がプラスに転じている結果に繋がっており地域の活性化が期待できます。その中で、地域医療支援病院であることを基本方針としつつ、地域住民の皆様、行政、他の施設の方々とともに健康で安心して暮らせる街づくりに参画できればと考えております。

新年の干支の辰は、陽の気が動いて万物が振動することで、活力旺盛になり大きく成長し、形がととのう年だといわれています。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



院長 松本 圭吾



新任 医師



脳神経外科

ここに
小谷 紗希

1月より赴任いたしました。長らく京都府内の病院に勤務しており、神戸市は初めての地ですが、地域の皆様に貢献できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願い致します。

退職医師のお知らせ

脳神経外科：高野 紘一
総合内科：河盛 真子



近隣医療機関のご紹介

ともクリニック

〒651-1114 神戸市北区鈴蘭台西町4丁目9-43
TEL:078-596-6533 FAX:078-596-6530

診療科目：
内科
小児科
外科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00~13:00	●	●	●	△	●	●	×
14:00~16:00	△	△	△	△ (~17:00)	△ (~17:00)	×	×
16:00~19:00	●	※	●	×	×	×	×

● 外来診療 △ 在宅診療 ※第1・第3火曜日の午後は在宅診療となります



ほ ちよん
許 智栄 院長

2022年10月より、鈴蘭台西町にて開業させていただきました。この地で20年以上も渡り地域医療に尽力されてこられた、ちもり医院を継承しての開業となります。患者さんと「とも」に考える医療、地域と「とも」にある医療を目指していきたいという思いから、ともクリニックと命名させていただきました。

私はこれまで救急診療や家庭医という総合的な診療を中心に経験を積んできました。専門をよく聞かれることがありましたが、「専門がないのが、専門である」、「目の前の患者さんの専門でありたい」をモットーにして医師としての自分を磨いてきたと自分は考えております。子どもから、大人まで、疾患や性別にとらわれずに医師として健康にかかわっていくこと、それがともクリニックの診療です。

どこに受診していいかわからない、困っている、そんなときに力になれる地域の診療所でありたい、そういう気持ちでスタッフ一同診療にあたっております。このような気持ちから在宅訪問診療にも力を入れており、住み慣れた家でできるだけ長く過ごしたいというような気持ちに寄り添える診療も、地域の各医療機関にお世話になりながら行っております。これから末永く、よろしくお願ひ申し上げます。



年男ご紹介



中川 登：外科

胃癌で胃切除術を受け、癌は治りました。心臓弁膜症で弁置換術を受け、一命をとりとめました。加齢に伴い、体にはいろいろ不具合が出てくる

ようですが、これも運命と割り切って、JCHO神戸中央病院の更なる発展に微力ながら貢献できれば、と思っております。外科医というものは、いくら年をとっても手術室やメスに対する愛着は、なくならない、と実感しております。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



田中 哲也：循環器内科

激務の京都第二赤十字病院から大学医局の強い要望で当院に異動となり、当院の循環器診療を盛り上げようと奮闘して早15年が経とうとして

おります。そろそろ医師人生の終盤となり、体力などがそれなりに衰えてきましたが、これからも引き続き当院の循環器診療の発展および地域の循環器診療の充実を目指して頑張りたいと思います。



古川 達也：眼科

今年で医師になり20年になりました。節目の年であり、またもう一度気持ちを入れなおす歳にもなりました。新しい事に挑戦する

気持ちを持ちつつ今までの自分を見つめ直しながら、しっかり1年を過ごしたいと考えています。



待合の椅子が新しくなりました



北鈴まちなか文化祭に参加しました

2023年9月30日(土)に開催された「北鈴まちなか文化祭」に当院も参加しました。ブースを設けた北山公園では附属看護専門学校の学生ボランティアが中心となり、人形の赤ちゃんのお世話や傷の処置体験、ゲームなどを行いたくさんの人との触れ合いができました。

聴診体験では、聴診器で我が子の心臓や呼吸の音を実際に聴いて感動される場面や高齢女性に赤ちゃんの抱っこをしてもらおうと子育てをされていた頃の思い出話などを語っていただきました。傷の処置体験では、学生が丁寧に傷の手当の説明を行いながら包帯を巻くことまで出来ると子どもさんも学生も共に達成感を味わっていました。

今回の貴重な体験を通し、地域における私達の役割を再確認・再認識できました。

聴診体験



赤ちゃんのお世話

手作りゲーム



クイズ

傷処置



神戸中央病院附属看護専門学校 沖本 由紀子

独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO) 神戸中央病院 第19回 市民医療セミナー

入場無料
(申込み不要)



生活習慣だいじょうぶ? 急にやってくる心臓と血管の病気



日時：令和6年2月3日(土) 13:00 開演

会場：すずらんホール(神戸市北区鈴蘭台西町1丁目26-1)

プログラム：講演会2階「大ホール」

第1部 市民医療セミナー

- 13:00 開会の挨拶 病院長 松本 圭吾
- 13:05 「虚血性心疾患って何?～病態から診断・治療まで～」
循環器内科 医師 橋本 翔
- 13:25 「その足の痛み、歩けない 血管の病気かも
～下肢閉塞性動脈硬化症について～」
循環器内科 医長 下田 義晃
- 13:45 「心不全って何だろう?～対策は相手をよく知ることから～」
循環器内科 医師 木田 遼太
- 14:05 閉会

相談コーナー ●12:15～12:55 ●14:05～14:25

薬剤師・理学療法士・管理栄養士・老人保健施設・健康管理センター・骨粗しょう症チーム

第2部 北区在宅医療・介護セミナー

テーマ：「薬と食べ物のミスマッチ」

- 14:30 開会の挨拶
北区医師会 会長 兼 北区医療・介護サポートセンター長 入江 正一郎
- 14:35 「薬と食べ物のミスマッチ」 北区薬剤師会 古川 太津子
- 15:05 「私は大丈夫と思っていないませんか?特殊詐欺に注意!!」
兵庫県神戸北警察 生活安全課 警部補 山田 記充
- 15:30 閉会

お越しの際は公共交通機関をご利用ください



メデイカル ライン

《医療機関向け》

脳神経内科 部長 吉田誠克



パーキンソン病について

パーキンソン病は、神経変性疾患の中で最も有病者数が多く、日本では10万人あたり150人とされています。発症年齢は大部分が40歳以上の中年期以降で、高齢になるほど有病率は高くなります。「パーキンソン病」という病名は一般の方にもよく知られていますが、疾患の定義は「中脳黒質緻密部のドーパミン神経細胞が変性・脱落する疾患で、病理学的に神経細胞の核内にレビー小体を認める疾患」と難しい概念です。臨床的には、無動（動作が鈍い）、筋強剛（体が固い）、安静時振戦（じっとしている時にふるえる）、姿勢反射障害（転倒しやすい）の4大運動症状が有名ですが、さらに自律神経障害（起立性低血圧、便秘、排尿障害など）や精神症状（うつ、不安、幻視・妄想など）、認知症などの多彩な非運動症状も示し、実は非常に複雑です。診断は、病歴と神経診察が重要で、後者については脳神経内科医による専門的な診察が望ましいです。パーキンソン病を疑えば、必要に応じて画像検査を実施します。画像検査には、頭部MRI、DATシンチ、MIBG心筋シンチおよび脳血流シンチがあり、これらを組み合わせて診断の参考にします（補助診断）。これらの画像検査は、いずれも当院にて実施可能です。

パーキンソン病とパーキンソン症候群との違いを患者さんからよく尋ねられます。パーキンソン症候群は先述の4大運動症状がみられる疾患で、パーキンソン病以外の疾患を含みます。これには「二次性パーキンソン症候群」と「他の変性疾患によるパーキンソン症候群」があり、前者には脳血管障害や薬剤などに起因する病態が、後者には多系統萎縮症や進行性核上性麻痺などの神経変性疾患が含まれます。それぞれの病態や疾患は原因、治療法、予後が異なっており、鑑別診断が重要となります。

パーキンソン病の治療は、L-ドパやドーパミン受容体作動薬をはじめとする内服治療が中心ですが、進行期には脳深部刺激療法やL-ドパ持続経腸療法といったデバイス療法を検討することがあります。また、リハビリテーションは内服治療やデバイス療法に加えて行うことで、症状のさらなる改善や生活の質の向上が期待できます。特に加齢や廃用に伴う筋力低下が生じやすい高齢のパーキンソン病患者にとってはリハビリテーションは必須といってもよいでしょう。リハビリテーションには運動療法、作業療法、言語・嚥下訓練がありますが、これらをバランスよく組み合わせることで効果が期待できます。

第6回「北神戸医療連携セミナー」のご案内



場 所：当院 2階会議室 及び WEB 形式によるハイブリッド方式
講演内容：ライフステージから考える婦人科疾患の治療 ～他科連携の重要性～
講 師：神戸中央病院 婦人科部長 辰巳 弘
日 時：令和6年2月22日（木）19時～

